室町源氏
の巻
梅堂國政画
廿六編下

久保田彦作著
廿六編上
紅英堂梓

久保田彦作著
廿六編上
紅英堂梓

14
3157
52
(51)

室町源氏胡蝶の夢

上巻

千圖

乙骨細次郎

偽花園

廣沼信濃

廿五へんかくつづき

せんれんをいめいふかくてきのどうせい
ふくろをいれまくまくの民情さろせん
こめかく」めつけとあひあつてさろつ」
ところありことゆうさぎのさんちろい
くもとちろろてこれとろいたんざやう
とくがくとしてとろもうろうぬとろ弟
かろうだきちいきやうぞ、ろぞのやくとも
ゆとびもちろとこ」つやうこえとぶのす
ことありさろてもうんてちあんとのもの
まろくこんちのきゆつてのざんとろいぬに
ろどのちろきよとちろくひろさん
ちろふとをのぐれてんのどろあろ
うでひみてきとあげんとろす物の
あり　ろけこあつることあびくゆて
ちぐいあきこのやあちふふこりり
あんころがやのこちむこにそわぐの
ろせものろこをあてまんいちきこを
れろひきそのすとてもうきき
とういすうあろのちんじあ
こきふこいてこちあちふらんの
のとひあつふああいとろ
ちやまつこやあといあんてろの
ごやあうあることてあきこう
あれぐとろもあふさぐ

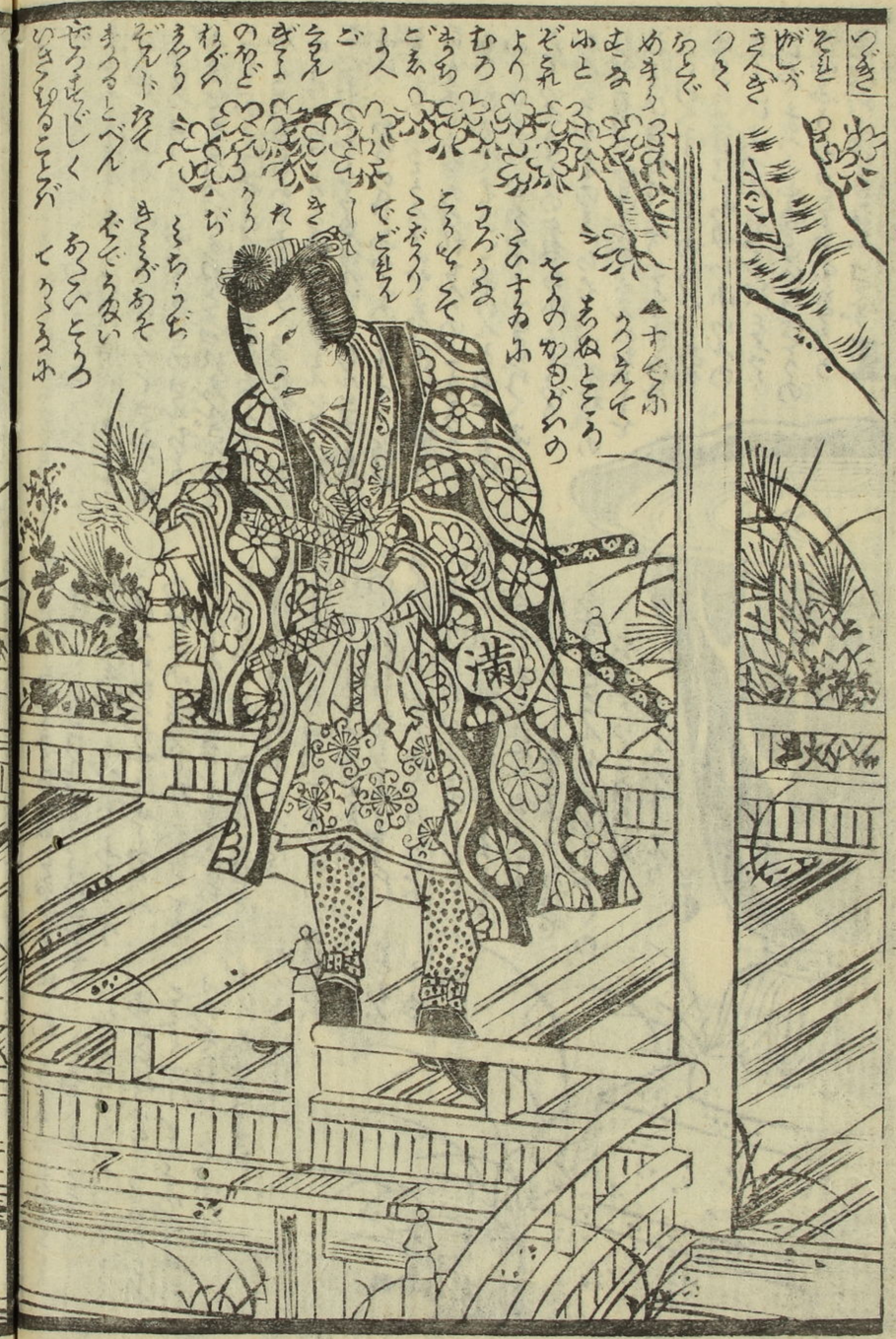
あれあぐふそもびしと
ゆとれてきちらぬどるちろに
ちふぶ弟ろ」ぐこちあんどちろぐのどるち
こあくびひつぐやろぶーやろへ
あせいゆまりせちこちくこう
のちろこあいあろとてこちと
つろぐやうすあそとろぐび
ひとの誹訪いろちんちぐ
ごやあちんきよあちぶ
ゆてちんいさちぶーやろの
そのとろいんちのどやろのちくい
んてろのぐれあつもと
ふこりくこありぶ
あふぐ四仁徳とろある
ものどもいそんきやうきーてあー
かぐのごぶとくちこふてろいで
ちぜんとろんぐあんこぶくの
ろぐちとろうちく
ろすてんの

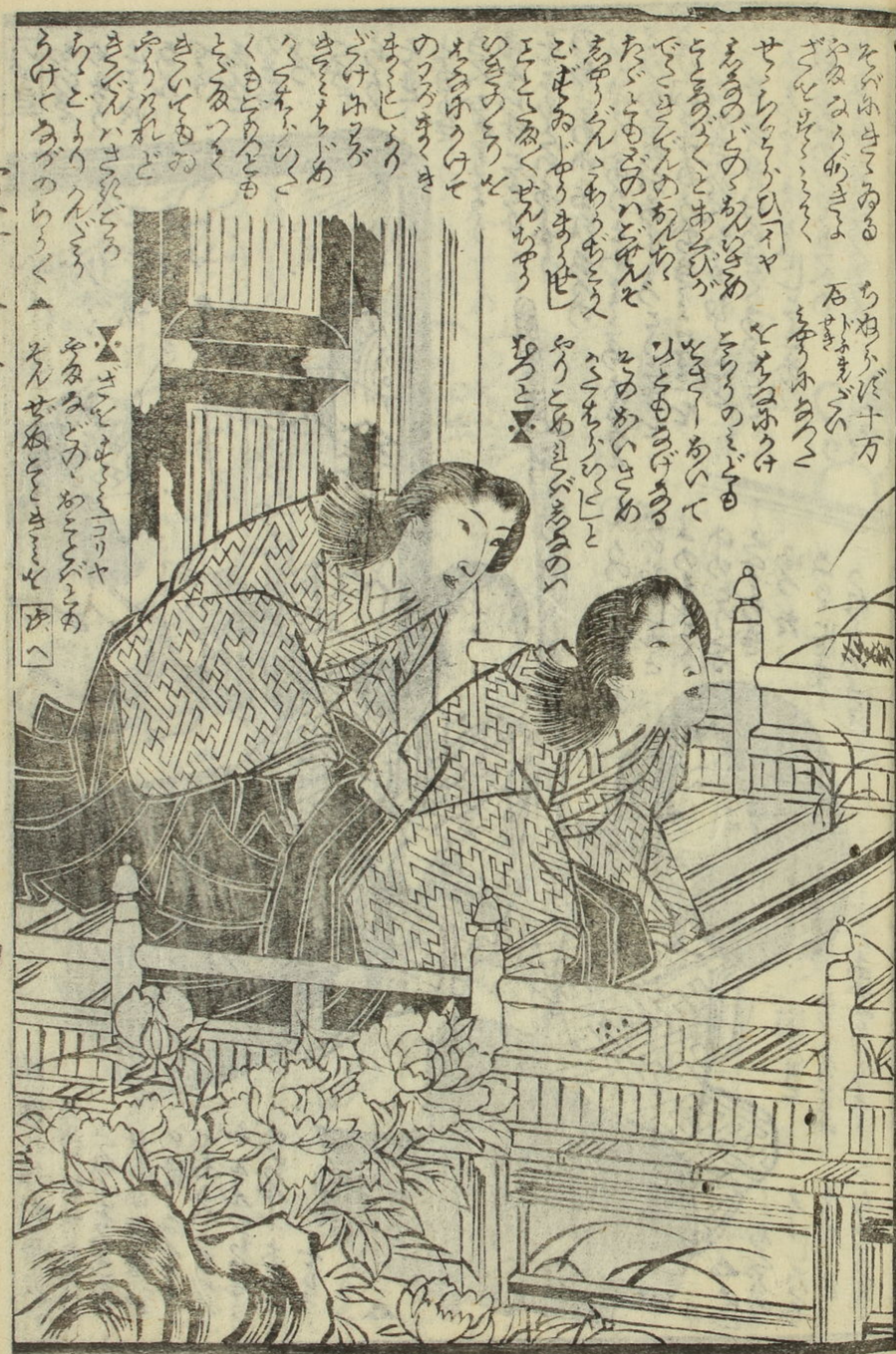
と

◐ ちこあるとけいさく
さあくもこもーり
かさきのちぬくごぶろうろ
あちぐすいこちろきにいふ
どくこのーとぐろのこあち
かのぞもたーえふひと
ーいちんふるまい
ちくこもふ
ろのこ
そあを
見あく
くも

次へ

つゞき





満

室町廿六

妙
滿

つゞき あれくよといふおりに数千の太鼓の[illegible]
ならずも人さわぎもなくあたりを[illegible]
まもりいたりしに岩組のひく[illegible]
[illegible]のちは
されどすがあるもむつかされ
[illegible]
木きふ[illegible]とくと
[illegible]
[illegible]
[illegible]二三げん[illegible]斗薮[illegible]

種彦遺稿
國政画圖

久保田彦作編次

柳蔭月朝妻　十編　山々亭有人作　大尾　梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知　十編　山々亭有人作　大尾　錦朝樓芳虎画

阿玉ヶ池柳月形　五編　爲永春水作　大尾　梅堂國貞画

八犬傳犬の双紙　六十　柳亭作　大尾　國政画

小學行儀法　全一冊

實母散

東京　堂本印刷所

イ 4
3157
52(51)

室町源氏
の巻
梅堂國政画
廿六編下

14
3187
52
(52)

上の巻ろうつづき

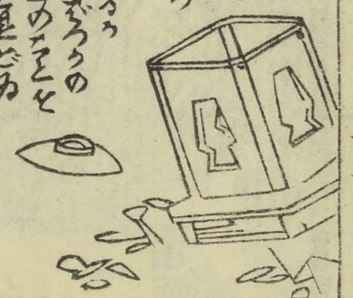
㊀ かのあくしゅ
きめしのふ
きくさすまび
よーろぎく
いよくふーだの
めでたしところの
うちふいおぎせ
どもぐいよまに
めしうたのくがあはい
やとふ一面ぜのかぐをを
ぎんしてーげをめち
びんのろをを
うきあげうぎして
のるかさるれそのの
りそ色ことつぎ
ふいふうあいとを
うくてひとぐくとの
ちのことろぶん
ようーこうろうハ▲

まうと
ろろう
「いるらの
ろろう
きろしわ
いづくいろる
ろろゆく
ろふる音色
いろろんがくの
くふときれいろい
てんぶろのろろう
びんぐくあぐぐしう
げふろもーろきと
どるろうれにつけ
てもちのてふのあび
のあるといろるるひとう
すしるきゆ、きろ色と

妙
満
陸

つぎき いろうるとくせのいんぐを
やらはしこあしようをぢぎこめ
あんすぐこのけぐろしてそのろろ
くーはあんくやをせるふもかろふ
とのごあるやとはべうるあぐーあやひ
まらしあはしいこわをねこしごられ
ところふきとろうるはしあるんべ
のこちらくめいこのうこくろとぢぎこん
れんがいこすい人倫ゑんのこちふくるる
ことうとそれるうんこのこをえぢくく
つしめどいうるうんぐろうそのこくもれむ
もいやゆふきこのかすぐこやこはかちうこき
めをひいけがめさきるるさぐるあんこれむせ
ゆめまがはとつ手をかくいんくころふ
まこくろひそゆはが
をれぜこちこいが
やゆひのこもあ
のちこをんこちろ
めこぶれありき
やまひのまこいぶ
ゆつけどいるよく
つのるいぢんのふの
のゆふひこーは

◐あゆくいのなさふ
いめとえるぞのぐこち
るふぬとこふまこうひ
るふにかるぞを
かくるふるまひある
ことのちんいちむろ
まちちあやうぐん
あんきてふころまるう
さもるのくこそもざろの
おこよこのーとのことと
めまきこるばこ見どみ
こるこうとぐくのだいど かくる
こうみいりとえるぞのあふが
とふうみひこちまびせろぐへ



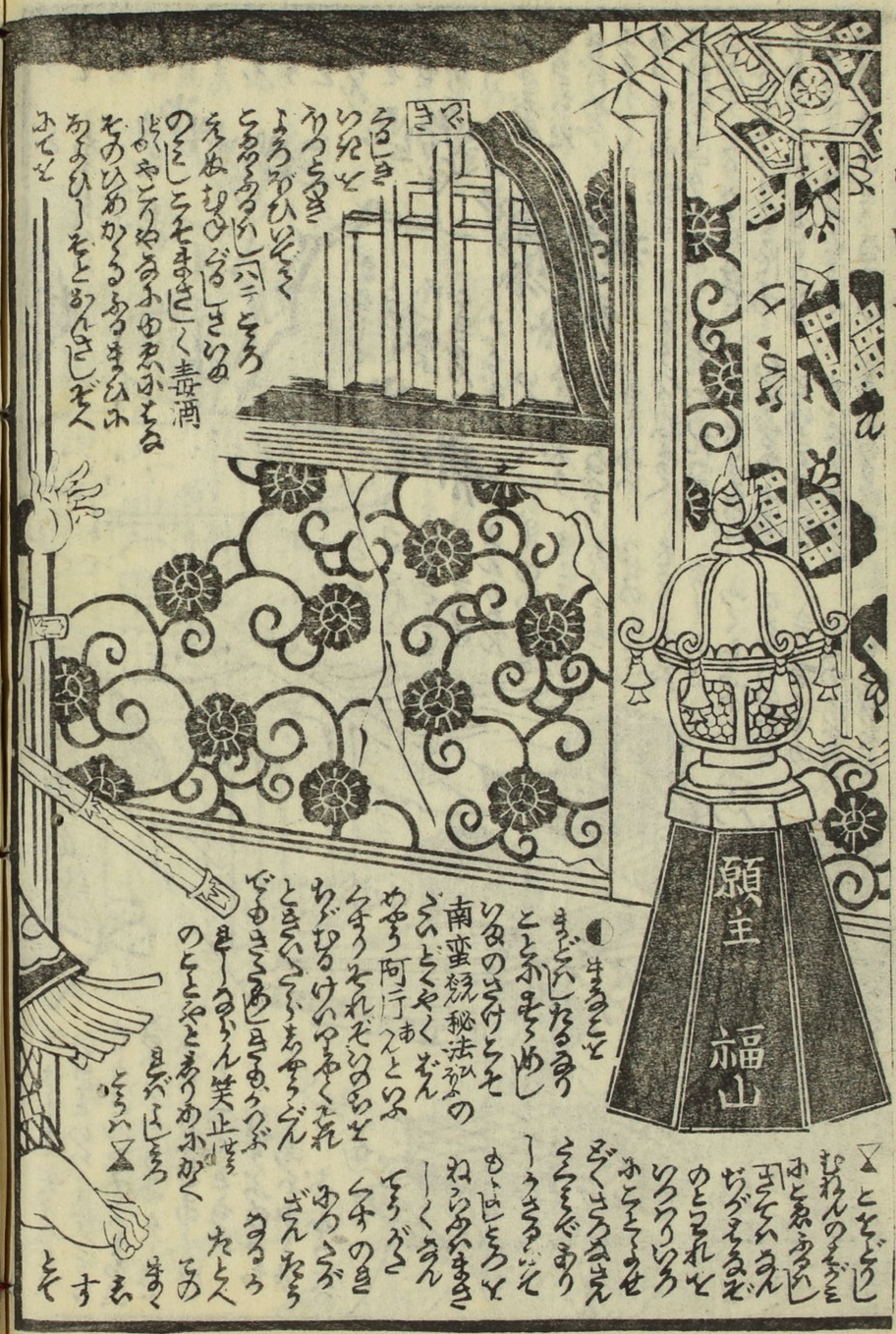
↑まるをてんりあるを
とすをふこの
きふにかるぞを
ら見しとあ四
とくひふいぐこ
あるこうひくこ
らあるがいろう
ゆきかつひふ
いめちいくみ
こあへどこの
まくあいこん
ぶじしとかろ
ぎちくあ
のいくゆを
つこらんが
らをかく
そこうあとし
こんたぎまる
といるをーこん
よふ出いこべ
まこぞこるや
ちこのまこひ
ぎるこうんと
つぎとまんせた

まこうひのこちひと
こびとひちふかち
いるこびちをんこのこ
ゑしをえんとまぐ
おかひこうこうこの
ことのをゆらもあふ
うこさとりこゑひ
あゆぎここしひめ
ゆろこもふこふこ
ちこびのごりをんふ
こをと
ぢりて
そのこちいいくころ
ふたーこまんとおゆく
いめのふをんのの
まこうひいさこふふ
さとこふわたせふ
てきこみおんを
まぐこ
あんを
どころの土佐とふ
めいーこぐこせちき
てことふうけあこゆ
ところとゆぐこめじが
日ごろうころちじき◐

たんこうこちこ
ぢこをうこ
びそ
こを
ぢこ
のゆるぐこあを
ゆーあとをこ
ねとをこるふ
ふをくこゆくふせ
どるこでこふまこ
りをたろのこ
ゆをこをゆ
ひこくせ
のつきひと
すごーあき
ゆふゆとけ
ふつふこ
もかこを
つをこまを
きこのちも
うけアいるを
ぢをこのが
かくまぐきこひ
こちゆこぬ 次へ

是より下四丁の恵様い等廿七編の始めの解分ると見て知りあへべー

陸


願主
福山

信

妙

信

〔つゞき〕あらせしことのあらましが
なかすゐをかゝりつけられずおせ
ちるぞのが父んとかうハさきにおや
なふのとよりしてつひにかのそのいよう
ゐきのすいでときゝのそのわどきゝきふ
むねんの死をとげられしひろぬの九郎
やそとみぢいうしをれいふまのむすめにて
またらい秋律あきといふものゝかのとゐん
あんあいして味方ましきさのりおりくめぐらせ
かゞけいりやくいろふかんぢをまよかしく
世をそくさんとおもふところへさきとも
かるあるハ世よそふかくさけて父と
のうきかのおくふそを命のびてゐる
ときてこもまうやなかゞいのちどゞきん
ちくめいあるとさいかひにあんびやを
すくめこのふるらにおびきよせ
まだ命のつぎさらくあもにすゐめく
このざなとあひみかうへいのわやなる
りなこのうちきをふかくをとぞしせ
さうすれバかんおゞいやくびちぎんし
おゝしておやうちへさんざのまゝ
ころどふせなりてあゆかぐんの
官位於んをのぞミ四方のあるし
とあひひかゝりそれねんのみん
ひとひかへるらくぞそあるとも

●あゆつゐふかし死をとゑせ
あうひハかくきのかうおんに
ぐきんめどころとまうよしにて
おわくのざいとうちゆとう
まさきんぐをひんさんに
わざしあくいる死がとけ
とありものとこのところを
みしもこれぐんもらあつむ
るでうくせんねんやまゆしろ
やまとのさろひにききろを
あくへとるぶも尽おもろく
このうさ死のふるでらへこり
まてひとゞとにきさるらち
きよどのにおろうとをそろしい
たるもおにとぞぶしまうとあ
がしく亡君くんひろぬの家も
うぢきさらがあゆうらのどむりん
ちのきんとおもふをそうか
たりがつのうちふるまきつひ
とのらにまあまんぜうがあしと
さいちひにまありつそのうち
ちるぞのがかりふすぐさを
あふして亡にこともなる
くとぞあゆとあゝうふ
がいちめのそふちぐむるつらが

■まぞみのちもうらぜんに
うけしうけどゝらやうにて
いとあやふきをいんかへりつゝ
あるがそこそのめそふくごとき
いちぶあしふのありがたう
それとそんぞをゆきいがなう
あゆうそきさてあるすむかん
のねざしのひあゆうぐんの
かうぐをいならにぞくす
うぢきよがお庭をうかひ
にちちかしとのきこよに
あふもしむろまちどあかへ
ひとうけあよこうそかてつふ
むひどうみのぞミぞまもうす
いこのときいそかくごあれ
あいろとよりニテあるとるる
かくまをとなうやさとぬきあ
まろふにふりわしとしろ
にまめるそのあふさきその
ら死ろらのまうぐんへ
やそうつかのそをひつゞくし
ぬきさらしくろうちきさ上が
かなみをあひそうちのかし
そのうちもやくもふとどろ
よりおひのあるせろあふ

あらぞあひけのちりにたびろ
らにとまさてあのひしみんちが
おろうつなうかふふゝらしろけのめ
きらもしうらくそこしも
えやくあんちうすうつべこの
うちききにつらしうくいらう
そのよしらこされとかしのそ
けうくすゞいあくふべきを
えどのきそあやーのあまいやま
はふいいかうちかつくいせしも
うがきさかどのゝのくろう
そもうらいかわんこゝろもの
ちるそのどいのりし歌律
あんぢわらしかるやおかり
どのきひあゆうぐふてむせんの
さいどそけふしゃそふあきその
かそへちらくめしうつしかふ
り侍女ちょいかりといふめの
すうしがひろぬけめつむうの
を空邪法秘ふあわわる楽器
きらそうひゆくこの世をあのび
みそ見へそきあるとすうくをみうし
うの醗約たいぶ夫人をとりかゝりに
その名を妙音比丘尼とあらため
けめらちふゝけりてゑやゑふの●

けいさく かくあふぶんかまおちふ
せしべすゑゆのがしなところ
ときとりかえぐせつくせと
さのうこうちききよえろうり
あゆうぐんふつあるこのおの
あうさなハざせのまくあるとむ
しがそうりゝうつこうのかん
いのちいとあゆふくぜうへふぬる
○ありかぐあゆうぐんあしころ
とうれみきぞこのやなへおさうらう
のやなまくおやまぜつそけりて
おわうすちりうのこゆへあわ
あゝしのあるうへにむきけうか
ちあるしのあなかすて庭しも
いろふあかわれてそれとなく
みの姫きゝくるさるそうの
ひめにそのあわりけのふうる
のふいうとくろもをするめ絶て
あるかさをとうとひ死いうむ
べうぶのうちのひよりくあん
ついそさおひもへしぞりの
よるのなちゐのおやにーき
いなつぐさけそのむとひし
く身心よはりのだのふらし
おひたゞしくちせきあひ■

かくみつまる火葬とそが
らえのひむらへあけりしあへ
パッとのしのおとらくぶあ
ふひゞけいやなくふゝてあせぶの
ありうるかちくどにさくるのしの
のあとゝれとひどしくさきのとあ
ゴイくあふとさんべんあの世うき
きのやなをとりうとむその三世
ぜいひくとのそやとをある
ふるでふのみんぜんまでもとと
ひらくりとゞふおとろくうち
きよわろうりとそつたくが
こえのうふとみやくもさよう
てとのなつところやくとびつ
ぐらしあぞーとそれものそざう
なりかくるとあへなでその
家臣あけていりくる喜々
ぐんのきん下のめのくふ
甲胄をそつけねども
いづれもおゞうるのくさり
かくびつうとうひぐしき
いぞくるふぬきくるの
やりをひつうくふーうろ
とうのこきをうくひ
今世のやぶれと〔つぎへ〕

「つゞき」つめよせてくりかへしてくどけば あんじやうけ「ヤアあつかましい ……

[illegible]

…… 山中 …… 見龍 ……

…… 牢屋 …… 申 …… 堅牢 ……

…… 同性 …… 浅智 …… 惟幕 ……

…… 世の動静 ……

[illegible]

柳亭種彦遺稿

久保田彦作編次

[illegible]

梅堂國政画

[illegible]

御届明治十六年三月十日

厚化粧萬年嶋田 廿編 春水作 國貞画

新局九尾傳 大尾 廿編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶巻 三十編 種彦作 國貞画

筆海四國聞書 十五編 大尾 種彦作 國貞画

鼠祠通夜譚 十編 種彦作 國貞画

明鶏墨画廼裲襠 廿編 大尾 種彦作 國貞画

童謡妙々車 三十編 種彦作 國貞画

花封賽玉章 十編 大尾 種彦作 國貞画

傳保幼日記 三十編 春水作 國貞画

七不思議葛飾譚 十五 大尾 種彦作 國貞画

赤坂田町六丁目十三番地
編輯人 久保田彦作

京橋區南傳馬町壹丁目二番地
出板人 林吉藏

イ 4
3157
52 (52上)